

阿賀野川水系流域懇談会 第2回上流部会 議事要旨

開催日時：平成21年7月14日（火）14:00～16:00

場 所：会津若松市文化センター 美術実習室2

議事次第：

1. 開会
2. 挨拶
3. 出席者の紹介
4. 議事
 - 1) 阿賀野川水系流域懇談会 第1回上流部会 議事報告
 - 2) 住民からの意見聴取実施報告（最終報告）について
 - 3) 骨子（案）について
 - 4) その他
5. 閉会

◇議事

1. 「阿賀野川水系流域懇談会 第1回上流部会 議事報告」

[主な意見]

(委員A)

- ・ 上流区間の正常流量は、 $1.7\text{m}^3/\text{s}$ であるが、このときの水面幅はどの程度を想定しているのか。
- ・ 代表魚種をウグイとしているが、そのほかの魚類は生息できるのか。水深30cmは、カワウにとっては餌を捕獲しやすい環境にある。産卵できる環境であっても、その後成長できるのか。

(事務局)

- ・ 川幅は5～6mを想定している。また、代表魚種は、河川水辺の国勢調査等で把握されている魚種のうち、もっとも生育・生息条件が厳しい魚類を選定しているため、その他の魚類の生息環境も維持されると考えている。
- ・ 正常流量の検討では、還元量は阿武隈川で設定している還元率を用いて推定している。そのため、正常流量については、今後も調査を継続し、精査する必要があると考えている。
- ・ 正常流量は渇水時に最低限必要な流量として考えている。

(委員A)

- ・ 流量の少ない上流区間等では、ワンドを作ったりというような配慮を行って欲しい。

(事務局)

- ・ 瀬や淵の創出など、自然再生事業は整備計画内で取り組みたいと考えている。

2. 「住民からの意見聴取実施報告（最終報告）について」

[主な意見]

- ・ 特になし

3. 「骨子（案）について」

（委員A）

- ・ 治水、利水、環境と合わせて「生活」という分類を設けてはどうか。
- ・ オニグルミをみると伐採、伐根を行っているが、実が流れてくることでまた成長している。攪乱によって本来の川の自然は作られてきたが、近年は攪乱の期間が長すぎる。また、山の植物や外来種などが川の中に入ってきており、川本来の姿が見られなくなっている。これからは、人の手による管理が強く求められていくのではないか。
- ・ 生活・社会の役割が重要であり、地域の方と一緒に阿賀川らしさを行っていくことがとても重要であると考えている。

（事務局）

- ・ 委員のご指摘である「生活」という観点は、地域の連携・協働による河川管理をしっかり進めていけば実現してくるものと考えている。
- ・ 成長の早い樹木については、地域での利用も含め、今後考えていきたい。

（部会長）

- ・ 生活という観点は、「9自然再生事業の推進」と「25 地域との連携・協働による河川管理」をうまく組み合わせ、盛り込んでいくと良いと思う。

（委員B）

- ・ 今年の積雪量が少ない中、大川ダム柔軟な運用を行い、水量を確保できていることは、農業従事者として感謝している。

（事務局）

- ・ 大川ダムの運用については、今年度試験的に制限水位を上回った場合でも貯留することを許容している。
- ・ 今後、大川ダムではダム流域の降雨特性を踏まえた運用について検討を行いたいと考えている。

（委員C）

- ・ 事業実施箇所について、濁川の合流点処理しかでてこないのは何故か。
- ・ 濁川合流点付近はワンドを作ってモニタリング調査を行っている。また、春先大型の魚類の生息場になっているので、工事を行う場合は配慮が必要になるのではないか。
- ・ 多自然川づくりの具体的な地点はあるのか。

（事務局）

- ・ 河川整備計画では、濁川以外にも長井地区や弱小堤など事業実施箇所のうち、20～30年間で優先的に行う箇所を挙げている。濁川については、昭和60年以降に阿賀川の上流に向か

って合流していた法線を是正しているが、流下能力が不足しており、河道掘削が残っている。そのため、整備メニューとして挙げている。

- ・ 下流狭窄部の改修効果によって、水位が低下し、ワンドが干上がってしまった。ワンドについては再生を考えたい。
- ・ 多自然川づくりは、災害復旧で護岸工事等が必要な場合に行うこととしており、地区は限定していない。

(委員D)

- ・ 大川ダムは堆砂量はどの程度あるのか。どの程度下流に運ぶのか。

(事務局)

- ・ 大川ダムはダム完成から22年経過しており、計画堆砂容量1300万m³のうち400万m³程度が堆砂している。これは、計画の30年分程度に相当し、やや堆砂が進行している。
- ・ 下流へは年5000m³程度運びたいと考えている

(部会長)

- ・ 大川ダムの土砂を下流へ運ぶ大きな狙いは何か。

(事務局)

- ・ 阿賀川の現状をみると、水衝部が固定化され樹木繁茂が著しい箇所がある。このような場所ではまず樹木伐採、河道掘削などの治水対策を行うが、その後、大川ダムに堆砂している大粒径の石を用いて、瀬や淵を回復させ、魚類の生息場を創出したいと考えている。

(部会長)

- ・ 今回示された「骨子(案)」が整備計画本文になったときは、どのようなイメージになるのか。

(事務局)

- ・ 整備計画(素案)では、骨子(案)と頂いた意見を基に文章を作成し、お示ししたい。

(委員E)

- ・ 工事のスケジュールが早まっている気がする。繁殖期を避けるなど、小さな工事でも実施時期を考えて欲しい。

(事務局)

- ・ 工事着手前に、必ずアドバイザーの方に意見を聞き、自然環境調査を行った上で適正な時期に工事を行っている。今後も引き続き努力していく。

(委員F)

- ・ 「人の駅」構想の具体的な内容は。

(事務局)

- ・ 地元町村が会津の文化・歴史を紹介する交流拠点の場を考えている。その中で河川管理者として協力したいと考えている。

(委員F)

- ・ 阿賀川、阿賀野川を「文化」で捉えて、上下流の連携をソフト面で図ってみてはどうか。

(委員G)

- ・ 塩川町では、「川の祭典」を開催しており、事務所に協力してもらっている。

(部会長)

- ・ 河川空間の利活用とか連携、協働の分野で書き方を工夫していくと良いのではないか。

(委員H)

- ・ 川を通した上下流の文化の交流が行われているが、地域に果たしてきた川の役割、歴史、文化を紹介していただきたい。

(委員I)

- ・ 地域の文化や川づくりが気になる。流域ネットワークではリバーツーリズムやグリーンツーリズムなど、最終的には新潟も含めた流域一体となった活動を行いたいと考えている。

(委員B)

- ・ 住民意見の聴取が非常に重要になっているのではないか。
- ・ 川本来の機能、治水安全度の向上に向けた対応を自然環境に配慮しつつ行って欲しい。

(委員J)

- ・ 阿賀川は、ダムが多い川であり流れが寸断されている、というイメージがある。水量の観点からみると、大川ダムの弾力的運用は非常に重要と考えられる。
- ・ 地域住民の意見をくみ取ってよりよい計画をつくってほしい。
- ・ アンケートのとり方は集約のときには工夫が必要。

4. 「その他」について

(委員D)

- ・ 下流側の状況を知る機会はないか。下流部会の資料配布を行い、内容を教えて欲しい

(事務局)

- ・ 下流部会は 7/29 に開催する。上流部会の委員も参加していただきたい。

以上